

## ■■同行者も参加者です■■

最近のコミケットでは参加者の年齢層が上下に伸びている関係で、子供や保護者が参加者とはぐれ、迷子になる事例が増えている。子供でも大人でも、コミケット会場の人の動き、ルールを知らなければ誰でも迷子になってしまう。連れて来る以上はその全責任はアナタが追わねばならないのだが、同行者も来場するからには参加者である。はぐれてしまった場合自分がどうすればよいのかは、知っておいてもらおう。

●**乳幼児：**ベビーカーやスリングが必要な年齢の幼児を連れての来場は、はっきり言ってオススメできない。場所によっては満員電車さながらの混雑で、どんなに保護者が注意しているつもりでも不慮の事故の危険性はつきまとう。待機中も会場内も休憩や授乳、おむつ交換の場所も十分ではない、加えて高い気温や湿度（子供は大人ほど環境適応力がないので、大人が耐えられると思う環境でも、子供には耐え難いほど暑かったり息苦しかったりすることが往々にしてある）や、大勢の大人たちに囲まれれば、子供のストレスは相当なものになる。

それを承知でなお連れてくるのであれば、できるだけ（親以外でも）2人以上の保護者が付き添う、待機列には短時間でも並ばない、混みあったエリアには立ち入らない、会場への滞在は2時間以内を目安に、といった、子供の保護を最優先とした行動を心がけてほしい。

●**小児：**背の低い子供にとって、会場内の混雑は顔や胸の高さに固く重いカバンがいくつも突き出される危険極まりない場所であり、また、ようやく自分で自由に歩けるような年代の子供は大人の視界に入りずらく、人混みに巻き込まれてしまう危険も大きい。

また、自我が確立してきた子供には親の都合だけで自分が興味のない場に長時間拘束されること自体が苦痛であることも考慮すべきだ。

目を離さないつもりでもどうしてもはぐれやすいので、子供の名前と保護者である参加者自身の名前、緊急連絡先として他の親族や保護者の名前と携帯の番号やメールアドレス、住所を記した迷子札は必ず持たせ、万一はぐれた場合はお互い探し回るよりもすぐに準備会インフォメーションに行くよう教えておこう。当然、子供が疲れた、帰りたいと言い出したら、その時点で帰宅すること。自分の楽しみのために弱者に無理を強いては、大人失格だ。

また、幼児であっても、男性向け女性向けを問わず成年向けの頒布物が多いエリアには連れて行かないこと。これは大人としての責任なのだ。

●**大人：**友人であれ親兄弟あるいは祖父祖母であれ、少なくとも義務教育を終了しているならばその同行者にもコミケットのルールは理解しておいてもらわねばならない。カタログの注意事項と本Comi-Naviの記事は必ず読んでおいてもらおう。また、会場内での待ち合わせが失敗した際にとるべき行動や、携帯電話が不通になった場合に連絡を取り合う方法などは事前によく相談しておく必要がある。

また、同行者が成人であっても、アナタのコミケットでの連絡先（本名／PNやHN、サークル参加者ならサークル名、メールアドレス、携帯電話番号など）は必ず明記して渡しておこう。そういった情報を秘さなければならない相手なら、そもそもコミケットに同伴すべきではない。

### ●コミケット、それは親切で回るシステム

会場内外では参加者は互いに助け合うことが原則だ。これは理念であるが、同時に、会場ではすぐにスタッフの助けを得られるとは限らないので、待ったり探す時間が惜しい。

ならば周囲の参加者同士で解決したほうが手取り早いという実に現実的な側面も持っている。“困った時はお互い様”、困った人を助けることは、自分が困ったら助けてもらえる可能性を育てることでもある。

この自助と助け合いのお陰でスタッフの負担も減り、コミケットという大イベントが大きなトラブルなく進行している。誇るべき伝統であり、コミケットにお客様は居ない、という言葉の意味でもある。

だから、アナタが何か困っている時に誰かが手助けを申し出てくれたら、恥ずかしがったり、遠慮せずにありがたく助けてもらおう。

あなたも誰かが困っていたら声をかけてあげればよいのだから。



## ■■同行者も参加者です■■

最近のコミケットでは参加者の年齢層が上下に伸びている関係で、子供や保護者が参加者とはぐれ、迷子になる事例が増えている。子供でも大人でも、コミケット会場の人々の動き、ルールを知らなければ誰でも迷子になってしまう。連れて来る以上はその全責任はアナタが追わねばならないのだが、同行者も来場するからには参加者である。はぐれてしまった場合自分がどうすればよいのかは、知っておいてもらおう。

●**乳幼児：**ベビーカーやスリングが必要な年齢の幼児を連れての来場は、はっきり言ってオススメできない。場所によっては満員電車さながらの混雑で、どんなに保護者が注意しているつもりでも不慮の事故の危険性はつきまとう。待機中も会場内も休憩や授乳、おむつ交換の場所も十分ではない、加えて高い気温や湿度（子供は大人ほど環境適応力がないので、大人が耐えられると思う環境でも、子供には耐え難いほど暑かったり息苦しかったりすることが往々にしてある）や、大勢の大人たちに囲まれれば、子供のストレスは相当なものになる。

それを承知でなお連れてくるのであれば、できるだけ（親以外でも）2人以上の保護者が付き添う、待機列には短時間でも並ばない、混みあったエリアには立ち入らない、会場への滞在は2時間以内を目安に、といった、子供の保護を最優先とした行動を心がけてほしい。

●**小児：**背の低い子供にとって、会場内の混雑は顔や胸の高さに固く重いカバンがいくつも突き出される危険極まりない場所であり、また、ようやく自分で自由に歩けるような年代の子供は大人の視界に入りずらく、人混みに巻き込まれてしまう危険も大きい。

また、自我が確立してきた子供には親の都合だけで自分が興味のない場に長時間拘束されること自体が苦痛であることも考慮すべきだ。

目を離さないつもりでもどうしてもはぐれやすいので、子供の名前と保護者である参加者自身の名前、緊急連絡先として他の親族や保護者の名前と携帯の番号やメールアドレス、住所を記した迷子札は必ず持たせ、万一はぐれた場合はお互い探し回るよりもすぐに準備会インフォメーションに行くよう教えておこう。当然、子供が疲れた、帰りたいと言い出したら、その時点で帰宅すること。自分の楽しみのために弱者に無理を強いては、大人失格だ。

また、幼児であっても、男性向け女性向けを問わず成年向けの頒布物が多いエリアには連れて行かないこと。これは大人としての責任なのだ。



●**大人：**友人であれ親兄弟あるいは祖父祖母であれ、少なくとも義務教育を終了しているならばその同行者にもコミケットのルールは理解しておいてもらわねばならない。カタログの注意事項と本Comi-Naviの記事は必ず読んでおいてもらおう。また、会場内での待ち合わせが失敗した際にとるべき行動や、携帯電話が不通になった場合に連絡を取り合う方法などは事前によく相談しておく必要がある。

また、同行者が成人であっても、アナタのコミケットでの連絡先（本名/PNやHN、サークル参加者ならサークル名、メールアドレス、携帯電話番号など）は必ず明記して渡しておこう。そういった情報を秘さなければならない相手なら、そもそもコミケットに同伴すべきではない。

### ●コミケット、それは親切で回るシステム

会場内外では参加者は互いに助け合うことが原則だ。これは理念であるが、同時に、会場ではすぐにスタッフの助けを得られるとは限らないので、待ったり探す時間が惜しい。

ならば周囲の参加者同士で解決したほうが手っ取り早いという実に現実的な側面も持っている。“困った時はお互い様”、困った人を助けることは、自分が困ったら助けてもらえる可能性を育てることでもある。

この自助と助け合いのお陰でスタッフの負担も減り、コミケットという大イベントが大きなトラブルなく進行している。誇るべき伝統であり、コミケットにお客様は居ない、という言葉の意味でもある。

だから、アナタが何か困っている時に誰かが手助けを申し出てくれたら、恥ずかしがったり、遠慮せずにありがたく助けてもらおう。

あなたも誰かが困っていたら声をかけてあげればよいのだから。



## ■■同行者も参加者です■■

最近のコミケットでは参加者の年齢層が上下に伸びている関係で、子供や保護者が参加者とはぐれ、迷子になる事例が増えている。子供でも大人でも、コミケット会場の人の動き、ルールを知らなければ誰でも迷子になってしまう。連れて来る以上はその全責任はアナタが追わねばならないのだが、同行者も来場するからには参加者である。はぐれてしまった場合自分がどうすればよいのかは、知ってもらおう。

●**乳幼児:** ベビーカーやスリングが必要な年齢の幼児を連れての来場は、はっきり言ってオススメできない。場所によっては満員電車さながらの混雑で、どんなに保護者が注意しているつもりでも不慮の事故の危険性はつきまとう。待機中も会場内も休憩や授乳、おむつ交換の場所も十分ではない、加えて高い気温や湿度（子供は大人ほど環境適応力がないので、大人が耐えられると思う環境でも、子供には耐え難いほど暑かったり息苦しかったりすることが往々にしてある）や、大勢の大人たちに囲まれれば、子供のストレスは相当なものになる。

それを承知でなお連れてくるのであれば、できるだけ（親以外でも）2人以上の保護者が付き添う、待機列には短時間でも並ばない、混みあったエリアには立ち入らない、会場への滞在は2時間以内を目安に、といった、子供の保護を最優先とした行動を心がけてほしい。

●**小児:** 背の低い子供にとって、会場内の混雑は顔や胸の高さに固く重いカバンがいくつも突き出される危険極まりない場所であり、また、ようやく自分で自由に歩けるような年代の子供は大人の視界に入りずらく、人混みに巻き込まれてしまう危険も大きい。

また、自我が確立してきた子供には親の都合だけで自分が興味のない場に長時間拘束されること自体が苦痛であることも考慮すべきだ。

目を離さないつもりでもどうしてもはぐれやすいので、子供の名前と保護者である参加者自身の名前、緊急連絡先として他の親族や保護者の名前と携帯の番号やメールアドレス、住所を記した迷子札は必ず持たせ、万一はぐれた場合はお互い探し回るよりもすぐに準備会インフォメーションに行くよう教えておこう。当然、子供が疲れた、帰りたいたいと言いついたら、その時点で帰宅すること。自分の楽しみのために弱者に無理を強いては、大人失格だ。

また、幼児であっても、男性向け女性向けを問わず成年向けの頒布物が多いエリアには連れて行かないこと。これは大人としての責任なのだ。



●**大人:** 友人であれ親兄弟あるいは祖父祖母であれ、少なくとも義務教育を終了しているならばその同行者にもコミケットのルールは理解しておいてもらわねばならない。カタログの注意事項と本Comi-Naviの記事は必ず読んでおいてもらおう。また、会場内での待ち合わせが失敗した際にとるべき行動や、携帯電話が不通になった場合に連絡を取り合う方法などは事前によく相談しておく必要がある。

また、同行者が成人であっても、アナタのコミケットでの連絡先（本名／PNやHN、サークル参加者ならサークル名、メールアドレス、携帯電話番号など）は必ず明記して渡しておこう。そういった情報を秘さなければならない相手なら、そもそもコミケットに同伴すべきではない。

### ●コミケット、それは親切で回るシステム

会場内外では参加者は互いに助け合うことが原則だ。これは理念であるが、同時に、会場ではすぐにスタッフの助けを得られるとは限らないので、待ったり探す時間が惜しい。

ならば周囲の参加者同士で解決したほうが手取り早いという実に現実的な側面も持っている。「困った時はお互い様」、困った人を助けることは、自分が困ったら助けてもらえる可能性を育てることもある。

この自助と助け合いのお陰でスタッフの負担も減り、コミケットという大イベントが大きなトラブルなく進行している。誇るべき伝統であり、コミケットにお客様は居ない、という言葉の意味でもある。

だから、アナタが何か困っている時に誰かが手助けを申し出てくれたら、恥ずかしがったり、遠慮せずにありがたく助けてもらおう。

あなたも誰かが困っていたら声をかけてあげればよいのだから。

